

重視したのは小事…渋沢栄一の生き方



月曜日の掃除の時間、廊下の床拭きをしている児童が2人で「今日は床が重いなあ」と言いながらも一生懸命拭き掃除を頑張ってくれていました。この時間帯の外の湿度は85%、廊下はもう少し高かったかもしれません。そのせいでいつもより雑巾と床の摩擦が大きくなり、重く感じたのかもかもしれません。子どもたちの素朴な表現はいつも素敵だなと思います。掃除の時間、特に拭き掃除はともすれば「面倒だなあ」「やりたくないなあ」と思う児童もいるかもしれません。でも、この小さな作業（小事）の積み重ねで学校はきれいになりますし、子どもたちの中にも「自分たちの学校を自分たちできれいにしていく」という意識を育てていくことにつながっていくのです。

さて、来週、7月3日（水）に20年ぶりに新しい紙幣が発行されます。その中の10000円札の肖像画は「日本資本主義の父」と呼ばれる渋沢栄一です。明治政府の要請を受け、新しい日本を作っていくために尽力し、銀行や製紙工場の設立、鉄道の敷設など幾つもの大偉業を成し遂げたことが挙げられます。（画像は渋沢栄一デジタルミュージアムより）

このように大きな業績（大事）を残した渋沢栄一ですが、実はその考え方は、小事（小さいこと）を大切にす人物だったと言われます。ちょっとしたこと、取るに足りないことをおろそかにすることを大変嫌い、手紙を書く時でさえ、他のことを考えずにそのことに専念したと言われています。最近、様々なメディア等から時々「そんな意味がない」「しなくてよい」など小さなことを軽視する風潮を感じます。私たち大人は子どもたちに、大人として小さなことを大切にす姿を見せることによって子どもたちのよきモデルになっていきたいと思います。「小事が大事」「小事が大事を生む」「凡事徹底」などこれに関わる故事成語はいくつかあります。紙幣が新しくなるこの時期、子どもたちとこんな話ができるといいなあと思いました。

幼児教育と小学校教育の接続について～津市架け橋プログラムの1視点

津市では津市架け橋プログラムとして幼児教育と小学校教育の接続を重視しています。令和4年度は代表者による研修、昨年度は市内4校の指定校による研究を行い、本年度から津市内全小学校において取組をスタートしています。（本校は昨年度から準備）今年度は職員が関係する幼稚園を訪ね、園児の活動の様子を参観しながら、取組をすすめているところです。先日、私も市内の子ども園を訪ね、園児が砂場で一人一人の思いを存分に発揮しながら遊ぶ姿を参観してきました。翌日は1年生が砂遊びを楽しんでいる姿を見ました。発達段階の違いにより、子ども園では園児と担任が1対1で関わる姿が多かったのに対し、1年生では何人かのグループで協働しながら作業をする姿が見られました。ただ、どちらも、担任に対して「先生、ご飯ができたよ」「先生、こんなのできた」など担任を呼び、自分の作ったものの喜びを共有してほしいという姿、一人一人の児童・園児の声に担任が「わーすごいなあ、じょうずにできたね」など丁寧に返している姿は共通していました。自分の思いを担任が見てくれ、共感してくれる…そのことが子どもたちの学習意欲につながっていくと捉え、今後の授業に活かしていきたいです。

